

(様式第 10)

琉大医総第273号  
平成26年10月1日

九州厚生局長 殿

琉球大学医学部附属病院長  
國吉 幸男 (印)

琉球大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和23年法律第205号）第12条の3の規定に基づき、平成25年度の業務  
に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原1番地
氏 名	国立大学法人琉球大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には  
法人の名称を記入すること。

2 名 称

琉球大学医学部附属病院
-------------

3 所在の場所

〒903-0215 沖縄県中頭郡西原町字上原207番地	電話(098)895-3331
--------------------------------	-----------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜 ② 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度か つ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜
--

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科							有 ・ (無)
内科と組み合わせた診療科名等							
1	2	3	4	5	6	7	
8	9	10	11	12	13	14	
診療実績							

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に  
ついて記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記  
入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で  
医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科							(有) ・ 無
外科と組み合わせた診療科名							
1 心臓血管外科	2	3	4	5	6	7	
8	9	10	11	12	13	14	
診療実績							

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科 ②小児科 ③整形外科 ④脳神経外科 ⑤皮膚科 ⑥泌尿器科 7産婦人科 ⑧産科 ⑨婦人科 ⑩眼科 ⑪耳鼻咽喉科 ⑫放射線科 13放射線診断科 14放射線治療科 ⑬麻酔科 16救急科
--

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科							(有) ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名							
1 歯科口腔外科	2	3	4	5	6	7	
歯科の診療体制							

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 呼吸器科	2 消化器科	3 循環器科	4 神経科	5 病理診断科	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
40床	6床	4床	0床	550床	600床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成26年9月1日現在)

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	372人	5.2人	377.2人	看 護 補 助 者	75人	診療エックス線技師	人
歯 科 医 師	19人	1.6人	20.6人	理 学 療 法 士	8人	臨床検査技師	36人
薬 剤 師	27人	人	27人	作 業 療 法 士	3人	衛生検査技師	人
保 健 師	人	人	人	視 能 訓 練 士	7人	そ の 他	人
助 産 師	20人	人	20人	義 肢 装 具 士	人	あん摩マッサージ指圧師	人
看 護 師	567人	20.9人	587.9人	臨 床 工 学 技 士	14人	医療社会事業従事者	人
准 看 護 師	人	0.7人	0.7人	栄 養 士	1人	その他の技術員	29人
歯 科 衛 生 士	2人	人	2人	歯 科 技 工 士	人	事 務 職 員	186人
管 理 栄 養 士	7人	人	7人	診 療 放 射 線 技 師	28人	そ の 他 の 職 員	37人

(注) 1 申請前半年以内のある月の初めの日における員数を記入すること。

2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。

3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成26年9月1日現在)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	8人	眼 科 専 門 医	9人
外 科 専 門 医	23人	耳 鼻 咽 喉 科 専 門 医	15人
精 神 科 専 門 医	5人	放 射 線 科 専 門 医	15人
小 児 科 専 門 医	12人	脳 神 経 外 科 専 門 医	6人
皮 膚 科 専 門 医	3人	整 形 外 科 専 門 医	15人
泌 尿 器 科 専 門 医	9人	麻 酔 科 専 門 医	12人
産 婦 人 科 専 門 医	13人	救 急 科 専 門 医	3人
		合 計	148人

(注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯 科 等 以 外	歯 科 等	合 計
1日当たり平均入院患者数	472.0人	14.7人	486.7人
1日当たり平均外来患者数	1,090.7人	62.9人	1153.6人
1日当たり平均調剤数			840剤
必要医師数			113.5人
必要歯科医師数			5.15人
必要薬剤師数			17人
必要(准)看護師数			284人

(注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。

2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。

3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除し

た数を記入すること。

- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

### 9 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備 概 要			
集中治療室	165.4m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	病床数	8床	心電計	(有)・無
			人工呼吸装置	(有)・無	心細動除去装置	(有)・無
			その他の救急蘇生装置	(有)・無	ペースメーカー	(有)・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 [移動式の場合] 台数	58.61m <sup>2</sup> 0台 (無菌テント等)	病床数	6床		
医薬品 情報管理室	[専用室の場合] 床積 [共用室の場合] 共用する室名	51.8m <sup>2</sup>				
化学検査室	358.97m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 全自動蛍光免疫測定装置			
細菌検査室	144.00m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 全自動迅速同定感受性測定装置			
病理検査室	162.00m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 脱水・脱脂パラフィン浸透装置			
病理解剖室	62.53m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) SL写真撮影装置			
研究室	6101.00m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) HSオールインワン蛍光顕微鏡システム			
講義室	525.91m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	室数	2室	収容定員	374人
図書室	807.00m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	室数	5室	蔵書数	120,000冊程度

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

### 10 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平成25年4月1日～平成26年3月31日	
紹介率	74.6%	逆紹介率	52.8%
算出 根拠	A: 紹介患者の数	10,594人	
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	8,146人	
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数	920人	
	D: 初診の患者の数	15,438人	

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
骨軟部腫瘍切除後骨欠損に対する自家液体窒素処理骨移植	1人
末梢血幹細胞による血管再生治療	0人
前眼部三次元画像解析	231人
急性リンパ性白血病細胞の免疫遺伝子再構成を利用した定量的PCR法による骨髄微小残存病変(MRD)量の測定	0人
硬膜外自家血注入療法	1人
光トポグラフィー検査を用いたうつ症状の鑑別診断補助	29人
抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子検査	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
胸部悪性腫瘍に対するラジオ焼灼療法	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

## (様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 3 その他の高度の医療

医療技術名	画像誘導手術	取扱患者数	70人
当該医療技術の概要 患者の機能画像(脳代謝、腫瘍活性、神経回路)及び形態画像をコンピューターに取り込むことで、手術摘出の安全性、最適化を促進する技術			
医療技術名	術中神経機能モニタリング	取扱患者数	76人
当該医療技術の概要 運動関連、知覚関連、視覚関連誘発電位を測定することで、手術操作中の機能活性をリアルタイムにモニタリングする技術			
医療技術名	若年子宮頸がんに対する妊孕性温存手術(広汎性子宮頸部摘出術)	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 挙児希望の強い初期の湿潤子宮頸がん患者に対する手術療法。治療効果と安全性、妊娠予後の評価のため臨床試験として施行。適応は40歳以下、腫瘍サイズ2cm以下、組織型が予後不良型ではないこと。重篤な合併症がないこと。子宮頸部周囲の靭帯を処理後、子宮頸部を摘出し子宮と膣管の再吻合を行う。			
医療技術名	癒着胎盤例に対する大動脈balloon留置併用cesarean hysterectomy	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 主に、前置癒着胎盤側に対して、大腿動脈よりballoonカテーテルを挿入、大動脈内に留置、帝王切開にて児娩出後balloonを拡張、骨盤内への血流を一時的に遮断し、子宮摘出術を行う。			
医療技術名	がん患者の妊孕能温存のための卵子凍結	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 がんに対する治療成績の向上により、多くの患者ががんを乗り越えるようになってきた。しかし、若年患者に対する放射線療法や化学療法は、卵巣機能を低下させ妊孕能の消失、早発閉経を引き起こすことがある。若年がん患者ががんを乗り越えて後に妊娠・出産する可能性を残すため、がん治療を開始する前に卵子を採取し、凍結保存を行う。凍結した卵子は厳重な管理を行い、女性のがんが治癒した後に、融解し顕微授精で受精させ、子宮に移植する。			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	29人	・膿疱性乾癬	13人
・多発性硬化症	19人	・広範脊柱管狭窄症	11人
・重症筋無力症	25人	・原発性胆汁性肝硬変	47人
・全身性エリテマトーデス	131人	・重症急性膵炎	0人
・スモン	0人	・特発性大腿骨頭壊死症	62人
・再生不良性貧血	9人	・混合性結合組織病	18人
・サルコイドーシス	55人	・原発性免疫不全症候群	1人
・筋萎縮性側索硬化症	13人	・特発性間質性肺炎	14人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	140人	・網膜色素変性症	34人
・特発性血小板減少性紫斑病	23人	・プリオン病	0人
・結節性動脈周囲炎	16人	・肺動脈性肺高血圧症	4人
・潰瘍性大腸炎	184人	・神経線維腫症	8人
・大動脈炎症候群	19人	・亜急性硬化性全脳炎	6人
・ビュルガー病	41人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	7人
・天疱瘡	37人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	10人
・脊髄小脳変性症	8人	・ライソゾーム病	9人
・クローン病	145人	・副腎白質ジストロフィー	1人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	4人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0人
・悪性関節リウマチ	3人	・脊髄性筋萎縮症	3人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	39人	・球脊髄性筋萎縮症	0人
・アミロイドーシス	5人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	2人
・後縦靭帯骨化症	33人	・肥大型心筋症	5人
・ハンチントン病	3人	・拘束型心筋症	0人
・モヤモヤ病( Willis動脈輪閉塞症)	12人	・ミトコンドリア病	3人
・ウェゲナー肉芽腫症	9人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	4人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	33人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	0人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	10人	・黄色靭帯骨化症	5人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	0人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、ADH分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	47人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。



(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・ハイリスク分娩管理加算
・歯科外来診療環境体制加算	・退院調整加算
・特定機能病院入院基本料(一般病棟7対1)	・救急搬送患者地域連携紹介加算
・特定機能病院入院基本料(精神病棟13対1)	・救急搬送患者地域連携受入加算
・臨床研修病院入院診療加算(医科・歯科)	・データ提出加算
・救急医療管理加算・乳幼児救急医療管理加算	・地域歯科診療支援病院入院加算
・超急性期脳卒中加算	・特定集中治療室管理料1
・妊産婦緊急搬送入院加算	・新生児特定集中治療室管理料1
・診療録管理体制加算	・新生児治療回復室入院医療管理料
・急性期看護補助体制加算(25対1看護補助者 5割未満)	・小児入院医療管理料2(プレイルーム加算)
・看護補助加算2(精神病棟)	・
・療養環境加算	・
・重症者等療養環境特別加算	・
・無菌治療室管理加算1	・
・無菌治療室管理加算2	・
・精神科応急入院施設管理加算	・
・精神科身体合併症管理加算	・
・重度アルコール依存症入院医療管理加算	・
・摂食障害入院医療管理加算	・
・がん診療連携拠点病院加算	・
・栄養サポートチーム加算	・
・医療安全対策加算1	・
・感染防止対策加算1(感染防止対策地域連携加算)	・
・患者サポート体制充実加算	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ハイリスク妊娠管理加算	・

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ウイルス疾患指導料	・長期継続頭蓋内脳波検査
・高度難聴指導管理料	・神経学的検査
・がん性疼痛緩和指導管理料	・補聴器適合検査
・移植後患者指導管理料	・内服・点滴誘発試験
・糖尿病透析予防指導管理料	・センチネルリンパ節生検
・外来リハビリテーション診療料	・画像診断管理加算2
・外来放射線照射診療料	・遠隔画像診断
・ニコチン依存症管理料	・ポジトロン断層撮影又はポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
・地域連携診療計画管理料	・CT撮影及びMRI撮影
・がん治療連携計画策定料	・冠動脈CT撮影加算
・がん治療連携管理料	・心臓MRI撮影加算
・肝炎インターフェロン治療計画料	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・薬剤管理指導料	・外来化学療法加算1
・医療機器安全管理料1	・無菌製剤処理料
・医療機器安全管理料2	・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)(初期加算)
・医療機器安全管理料(歯科)	・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)(初期加算)
・歯科治療総合医療管理料	・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)(初期加算)
・造血器腫瘍遺伝子検査	・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)(初期加算)
・HPV核酸検出	・がん患者リハビリテーション料
・検体検査管理加算(Ⅰ)	・集団コミュニケーション療法料
・検体検査管理加算(Ⅳ)	・医療保護入院等診療料
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・一酸化窒素吸入療法
・植込型心電図検査	・悪性黒色腫センチネルリンパ節加算(通則4)
・時間内歩行試験	・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術
・ヘッドアップティルト試験	・網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)
・皮下連続式グルコース測定	・人工内耳植込術

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・植込型骨導補聴器の植え込み及び接合子付骨導端子又は骨導端子の交換	・麻酔管理料(Ⅰ)
・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)、 下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)	・麻酔管理料(Ⅱ)
・乳がんセンチネルリンパ節加算1および2	・放射線治療専任加算
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	・外来放射線治療加算
・植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術	・高エネルギー放射線治療
・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術	・強度変調放射線治療(IMRT)
・植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術	・画像誘導放射線治療(IGRT)
・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術	・直線加速器による定位放射線治療
・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)	・テレパソロジーによる術中迅速病理組織標本作製
・補助人工心臓	・テレパソロジーによる術中迅速細胞診
・植込型補助人工心臓(非拍動流型)	・病理診断管理加算2
・経皮的動脈遮断術	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・ダメージコントロール手術	・歯科矯正診断料
・腹腔鏡下肝切除術	・顎口腔機能診断料(顎変形症(顎離断等の手術を必要とするものに限る。))の手術前後における歯科矯正に係るもの)
・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術	・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
・体外衝撃波腎・尿管結石破碎術	・
・同種死体腎移植術	・
・生体腎移植術	・
・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	・
・人工尿道括約筋植込・置換術	・
・医科点数表第2章第10部手術の通則5及び 6(歯科点数表第2章第9部の通則4を含む。)に掲げる手術	・
・輸血管理料Ⅱ	・
・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	・
・歯周組織再生誘導手術	・
・広範囲顎骨支持型装置埋入手術	・



(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
潰瘍性大腸炎のあらゆる活動過程における拡大内視鏡所見と臨床病理学的検討	金城 徹	光学医療診療部	600,000	補委	日本学術振興会 科研費
尿路上皮癌の新規尿中マーカー 80KDa糖蛋白の臨床的意義と生物学的役割	木村 太一	泌尿器科	1,560,000	補委	日本学術振興会 科研費
頭頸部癌治療における高濃度酸素療法の可能性とロックス1発現に関する検討	真栄田 裕行	耳鼻咽喉科	910,000	補委	日本学術振興会 科研費
ATL既感染者に生じた菌状息肉症と、皮膚型ATLの鑑別アルゴリズムの開発	平良 清人	皮膚病態制御学	1,430,000	補委	日本学術振興会 科研費
一酸化窒素合成酵素完全欠損マウスを用いた大動脈瘤/大動脈解離発症の解明	新垣 久美子	医療福祉支援センター	1,430,000	補委	日本学術振興会 科研費
脳梗塞におけるNO合成酵素系の役割の解明と次世代治療戦略の確立	久保田 陽秋	麻酔科	1,690,000	補委	日本学術振興会 科研費
頭頸部扁平上皮癌におけるリゾフォスファチジン酸経路:新規非EDG型受容体の意義	又吉 宣	耳鼻咽喉科	910,000	補委	日本学術振興会 科研費
加齢にともなう排尿障害への早期薬物リハビリテーション介入	宮里 実	泌尿器科	650,000	補委	日本学術振興会 科研費
若齢期の高脂肪食や甘味料曝露による食の嗜好性構築/記憶化(学習)メカニズムの解明	屋比久 浩市	第二内科	2,210,000	補委	日本学術振興会 科研費
遅発性脊髄障害とDセリン～ノックアウトマウスを用いた研究～	淵上 竜也	集中治療部	2,470,000	補委	日本学術振興会 科研費

小計 10件

宮古島に多発するカポジ肉腫とHHV8潜在感染率の疫学的調査と輸血の安全性について	林 健太郎	皮膚科	2,080,000	補委	日本学術振興会 科研費
遅発性脊髄障害にToll様受容体は関与しているか?	野口 信弘	手術部	2,340,000	補委	日本学術振興会 科研費
多価不飽和脂肪酸がヒト卵子の受精・胚発生能に及ぼす影響について	銘苺 桂子	周産母子センター	1,950,000	補委	日本学術振興会 科研費
アジア腎生検レジストリーの創設と最適な腎疾患治療を目指すアジア腎疾患コホート研究	井関 邦敏	血液浄化療法部	325,000	補委	日本学術振興会 科研費 (研究分担者)
末梢動脈疾患の包括的テーラーメイドリハビリテーションの確立	石田 明夫	第三内科	13,000	補委	日本学術振興会 科研費 (研究分担者)
末梢動脈疾患の包括的テーラーメイドリハビリテーションの確立	伊敷 哲也	第三内科	13,000	補委	日本学術振興会 科研費 (研究分担者)
末梢動脈疾患の包括的テーラーメイドリハビリテーションの確立	岸本 幸明	リハビリテーション部	13,000	補委	日本学術振興会 科研費 (研究分担者)
生殖補助医療:走化性による新規精子選別法を目指したマウス精子による検討	安里 こずえ	周産母子センター	494,000	補委	日本学術振興会 科研費 (研究分担者)
生殖補助医療:走化性による新規精子選別法を目指したマウス精子による検討	平敷 千晶	周産母子センター	494,000	補委	日本学術振興会 科研費 (研究分担者)
低酸素腫瘍細胞の酸素化直後における放射線治療効果を規定する機序の解明	合志 清隆	高気圧治療部	65,000	補委	日本学術振興会 科研費 (研究分担者)
ギャラニン受容体2型導入による頭頸部癌遺伝子治療の前臨床研究	上原 貴行	耳鼻咽喉科	65,000	補委	日本学術振興会 科研費 (研究分担者)
IgA腎症新規バイオマーカーを用いた血尿の2次スクリーニングの試み	井関 邦敏	血液浄化療法部	1,000,000	補委	厚生労働省 科研費 (研究分担者)

小計 12件

かかりつけ医/非腎臓専門医と腎臓専門医の協力を促進する慢性腎臓病患者の重症化予防のための診療システムの有用性を検討する研究	井関 邦敏	血液浄化療法部	400,000	補委	厚生労働省 科研費 (研究分担者)
特定健康診査による個人リスク評価に基づく、保健指導と連結した効果的な慢性腎臓病(CKD)地域医療連携システムの制度設計	井関 邦敏	血液浄化療法部	700,000	補委	厚生労働省 科研費 (研究分担者)
原発性高脂血症に関する調査研究	太田 孝男	育成医学	800,000	補委	厚生労働省 科研費 (研究分担者)
新しい新生児代謝スクリーニング時代に適応した先天代謝異常症の診断基準作成と治療ガイドラインの作成および新たな薬剤開発に向けた調査研究	太田 孝男	育成医学	1,000,000	補委	厚生労働省 科研費 (研究分担者)
門脈血行異常症に関する調査研究	國吉 幸男	胸部心臓血管外科学	350,000	補委	厚生労働省 科研費 (研究分担者)
N0口腔癌における選択的頸部郭清術とセンチネルリンパ節ナビゲーション手術の無作為化比較試験	鈴木 幹男	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	200,000	補委	厚生労働省 科研費 (研究分担者)
MSMのHIV感染対策の企画、実施、評価の体制整備に関する研究	健山 正男	感染症・呼吸器・消化器内科学	1,450,000	補委	厚生労働省 科研費 (研究分担者)
国内で流行するHIVとその薬剤耐性株の動向把握に関する研究	健山 正男	感染症・呼吸器・消化器内科学	1,000,000	補委	厚生労働省 科研費 (研究分担者)
高精度放射線治療システムの実態調査と臨床評価に関する研究	戸板 孝文	放射線診断治療学	100,000	補委	厚生労働省 科研費 (研究分担者)
がんの診療科データベースとJapanese National Cancer Database(JNCDB)の構築と運用	戸板 孝文	放射線診断治療学	100,000	補委	厚生労働省 科研費 (研究分担者)
成人の重症肺炎サーベイランス構築に関する研究	藤田 次郎	感染症・呼吸器・消化器内科学	1,200,000	補委	厚生労働省 科研費 (研究分担者)
院内がん登録の標準化と普及に関する研究	増田 昌人	がんセンター	400,000	補委	厚生労働省 科研費 (研究分担者)

HTLV-I関連希少難治性疾患における臨床研究の全国展開と基盤整備	藤田 次郎	感染症・呼吸器・消化器内科学	1,400,000	補委	厚生労働省 科研費(研究分担者)
HAMの革新的な治療法となる抗CCR4抗体療法の実用化に向けた開発	渡嘉敷 崇	循環器・腎臓・神経内科学	400,000	補委	厚生労働省 科研費(研究分担者)
治験の実施に関する研究[テムシロリムス]	青木 陽一	女性・生殖医学	1,400,000	補委	厚生労働省 科研費
がん医療連携体制推進事業(地域統括相談支援センター事業)	増田 昌人	がんセンター	12,000,000	補委	沖縄県
専門医派遣巡回診療支援事業(医師キャリア支援センター)	村山 貞之	附属病院長	6,125,000	補委	公益社団法人地域医療振興協会
平成25年度HIV感染者等保健福祉相談事業	健山 正男	第一内科	1,000,000	補委	公益財団法人エイズ予防財団
沖縄県エイズ治療拠点病院研修委託	藤田 次郎	第一内科	690,000	補委	沖縄県福祉保健部健康増進課結核感染症班
地域の療養情報おきなわがんサポートハンドブック作成事業	増田 昌人	がんセンター	4,000,000	補委	沖縄県
平成25年度HIV診療医師情報網支援事業	健山 正男	第一内科	200,000	補委	九州ブロックエイズ診療ネットワーク

合計 43件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。



(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	Imaizumi A	眼科	Efficacy of Short-term Postoperative Perfluoron-n-octane Tamponade for Pediatric Complex Retinal Detachment	American journal of ophthalmology 2014 Feb;157(2):384-389. e2
2	Wakayama A	産婦人科	Concurrent chemoradiotherapy for nonbulky stage IB/II cervical cancer without pelvic node enlargement.	Anticancer Research 2013 Nov;33(11):5123-6.
3	Kasuya G	放射線科	Postoperative radiotherapy for uterine cervical cancer: impact of lymph node and histological type on survival.	Anticancer Reserch 2013 May;33(5):2199-204.
4	Yamashiro S	第二外科	Emergency operation for aortic dissection with ischemic stroke.	Asian cardiovascular & thoracic annals 2014 Feb;22(2):208-11. doi:
5	Ganaha A	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Pathogenic substitution of IVS15 + 5G > A in SLC26A4 in patients of Okinawa Islands with enlarged vestibular aqueduct syndrome or Pendred syndrome.	BMC Medical Genetics Published: 24 May 2013 2013, 14:56
6	Uehara T	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Novel anti-tumor mechanism of galanin receptor type 2 in head and neck squamous cell carcinoma cells.	Cancer science 2014 Jan;105(1):72-80. doi: 10.1111/cas.12315. Epub 2013 Dec 1.

小計 6件

7	Sakima A	第三内科	Diuretics enhance effects of increased dose of candesartan on ambulatory blood pressure reduction in Japanese patients with uncontrolled hypertension treated with medium-dose angiotensin II receptor blockers.	Clinical and experimental nephrology 2014;36(1):40-5.
8	Kohagura K	第三内科	Hypertriglyceridemia accompanied by increased serum complement component 3 and proteinuria in non-nephrotic chronic kidney disease.	Clinical and experimental nephrology 2013 Jun 12.
9	Iseki K	第三内科	Effect of glomerular filtration rate and proteinuria on medical cost among screened subjects.	Clinical and experimental nephrology 2013 Jun;17(3):372-8. doi: 10.1007/s10157-012-0718-z. Epub 2012 Nov 20.
10	Iseki K	第三内科	Nephrology for the people: Presidential Address at the 42nd Regional Meeting of the Japanese Society of Nephrology in Okinawa 2012.	Clinical and experimental nephrology 2013 Aug;17(4):480-7. doi: 10.1007/s10157-013-0776-x. Epub 2013 Feb 8. Review.
11	Iseki K	第三内科	Stroke feature and management in dialysis patients.	Contributions to Nephrology 2013;179:100-9. doi: 10.1159/000346728. Epub 2013 May 3. Review.
12	Yamashiro T	放射線科	320-Row wide volume CT significantly reduces density heterogeneity observed in the descending aorta: comparisons with 64-row helical CT.	Computerized medical imaging and graphics 2014 Jan;38(1):15-21. doi: 10.1016/j.compmedimag.2013.10.003. Epub 2013 Oct 21.

小計 12件

13	Kakinohana M	麻醉科	Protective Effects of Anesthetics on the Spinal Cord.	Current Pharmaceutical Design 2014 Feb 3. [Epub ahead of print]
14	Mekaru K	周産母子センター	Endometriosis and pregnancy outcome: are pregnancies complicated by endometriosis a high-risk group?	European journal of obstetrics, gynecology, and reproductive biology 2014 Jan;172:36-9.
15	Yamashiro S	第二外科	Potential role of omental wrapping to prevent infection after.	European journal of cardio-thoracic surgery 2013. Jun;43(6):1177-82
16	Hokama A	光学医療診療部	The annual tree ring sign, the concentric sign, and Aurora rings: similar faces of "prolapsing diseases?"	Gastrointestinal Endoscopy 2014 Mar;79(3):538.
17	Hobo K	歯科口腔外科	Effects of the reappearance of primitive reflexes on eating function and prognosis	Geriatrics & gerontology international 2013/8/1 2014 Jan;14(1):190-7
18	Deng Z	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Viral load, physical status, and E9/E7 mRNA expression of human papillomaviurs in head and neck squamous cell carcinoma	Head & neck 2013/6/1 2013 Jun;35(6):800-8
19	Inoue T	第三内科	Heart rate as a possible therapeutic guide for the prevention of cardiovascular disease.	Hypertension research 2013 Oct;36(10):838-44.

小計 19件

20	Iseki K	第三内科	Changes in serum uric acid have a reciprocal effect on eGFR change: a 10-year follow-up study of community-based screening in Okinawa, Japan.	Hypertension research 2013 Jul;36(7):650-4. doi: 10.1038/hr.2013.11. Epub 2013 Mar 14
21	Isa K	第三内科	Association between the intima-media thickness of the brachiocephalic trunk and white matter hyperintensity in brain MRI.	Hypertension research 2013 Nov;36(11):980-4.
22	Nagahama K	第三内科	Hyperuricemia predicts future metabolic syndrome: a 4-year follow-up study of a large screened cohort in Okinawa, Japan.	Hypertension research 2014 Mar;37(3):232-8.
23	Isa K	第三内科	Dolichoectatic vertebrobasilar dissecting aneurysm originating from atherosclerosis: an autopsy case.	Internal Medicine 2013;52(16):1821-3.
24	Hibiya K	第一内科	Depression of local cell-mediated immunity and histological characteristics of disseminated AIDS-related <i>Mycobacterium avium</i> infection after the initiation of antiretroviral therapy.	Internal Medicine 2013/8/1 2013;52(16):1793-803.
25	Nakayama Y	第一内科	Increased expression of HBZ and Foxp3 mRNA in bronchoalveolar lavage cells taken from human T-lymphotropic virus type 1-associated lung disorder patients.	Internal Medicine 41609
26	Taira S	第二内科	Lipid Deposition in Various Sites of the Skeletal Muscles and Liver Exhibits a Positive Correlation with Visceral Fat Accumulation in Middle-aged Japanese Men with Metabolic Syndrome.	Internal Medicine 2013/10/1 Intern Med. 2013;52(14):1561-71. Epub 2013 Jul 15.

小計 26件

27	Tamura J	第一内科	An inflammatory polyp in the colon caused by the migration of a Kirschner wire following fixation of a pelvic fracture.	Internal Medicine 2014/3/1 2014;53(7):699-701. Epub 2012 Mar 1.
28	Kudaka W	産婦人科	Long-term results and prognostic factors in patients with stage III-IVA squamous cell carcinoma of the cervix treated with concurrent chemoradiotherapy from a single institution study.	International journal of clinical oncology 2013/10/1 2013 Oct;18(5):916-21
29	Hibiya K	第一内科	Enteral entrance of <i>Mycobacterium avium</i> in patients with disseminated mycobacterial disease.	International Journal of Mycobacteriology 2013/6 Volume 2, Issue 2, Pages 71-122 (June 2013)
30	Matayoshi S	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Lysophosphatidic acid receptor 4 signaling potentially modulates malignant behavior in human head and neck squamous cell carcinoma cells.	International journal of oncology 2013/5/1 2013 May;42(5):1560-8.
31	Rokkaku T	整形外科	Anticancer effects of marine carotenoids, fucoxanthin and its deacetylated product, fucoxanthinol, on osteosarcoma.	International journal of oncology 41548
32	Sugama I	第三内科	Superoxide dismutase mimetic, tempol, aggravates renal injury in advanced-stage stroke-prone spontaneously hypertensive rats.	Journal of hypertension 2014 Mar;32(3):534-41.
33	Sugama C	第三内科	Trends in the incidence of stroke and cardiovascular risk factors on the isolated island of Okinawa: the Miyakojima study.	Journal of stroke and cerebrovascular diseases 2013 Oct;22(7):e118-23.

小計 33件

34	Kamiya A.	放射線科	Kurtosis and skewness assessments of solid lung nodule density histograms: differentiating malignant from benign nodules on CT.	Japanese Journal of Radiology 2014/1/1 2014 Jan;32(1):14-21. doi: 10.1007/s11604-013-0264-y. Epub 2013 Nov 19.
35	Haroon A	第一内科	Differential diagnosis of non-segmental consolidations.	Journa of Pulmonary and Respiratory Medicine 2013/4/24 April 24, 2013
36	Nakamura H	第一内科	The prevalence of airway obstruction among Japanese HIV-positive male patients compared with general population; a case-control study of single center analysis.	Journal of Infection and Chemotherapy 41699
37	Nakazato A	第一内科	Are MMSE and HDS-R neuropsychological tests adequate for screening HIV-associated neurocognitive disorders?	Journal of Infection and Chemotherapy 2014/1/1 2014 Mar;20(3):217-9. doi: 10.1016/j.jiac.2013.10.005. Epub 2014 Jan 18.
38	Watanabe T	脳神経外科	Enhanced antitumor effect of YM872 and AG1296 combination treatment on human glioblastoma xenograft models.	Journal of neurosurgery 2013/3/1 2013 Apr;118(4):838-45
39	Miyazato M	泌尿器科	Prevalence and risk factors for nocturia in an outpatient clinic.	Lower Urinary Tract Symptoms 2013/9/1 Article first published online: 9 OCT 2013
40	Iseki K	第三内科	Effects of angiotensin receptor blockade (ARB) on mortality and cardiovascular outcomes in patients with long-term haemodialysis: a randomized controlled trial.	Nephrology, dialysis, transplantation 2013 Jun;28(6):1579-89.

小計 40件

41	Koide M	第一内科	Role of <i>Brebundimonas vesicularis</i> in supporting the growth of <i>Legionella</i> in nutrient-poor environments.	The new microbiologica 2014/1/1 2014 Jan;37(1):33-9. Epub 2014 Jan 15.
42	Kasuya G.	放射線科	Distribution patterns of metastatic pelvic lymph nodes assessed by CT/MRI in patients with uterine cervical cancer.	Radiation Oncology 2013/6/1 2013 Jun 8;8:139. doi: 10.1186/1748-717X-8-139.
43	Miyazato M	泌尿器科	The Other Bladder Syndrome; the Under Active Bladder.	Reviews in Urology 2013/7/5 2013;15(1):11-22.
44	Michishita S	精神病態医学講座	Effects of personality traits and work-related attitudes on job stress among nurses in general hospitals.	Ryukyu Medical Journal 2013/10/1 巻: 32 号: 1-2 ページ: 23-32
45	Travis SS	精神病態医学講座	Obesity-related impact on Quality of Life of adult healthy working population in the Republic of Palau	Ryukyu Medical Journal 2013/10/1 巻: 32 号: 1-2 ページ: 13-22
46	Ohira A	皮膚科	Fixed eruption due to quinine in tonic water: a case report with high-performance liquid chromatography and ultraviolet A analyses.	The journal of dermatology 2013/8/1 2013 Aug;40(8):629-31. doi: 10.1111/1346-8138.12195. Epub 2013 Jun 3.

小計 46件

47	Utsumi D	皮膚科	Case of palmoplantar keratoderma with sensorineural deafness and mental retardation that may be another variant of syndromic palmoplantar keratoderma.	The journal of dermatology 2013/7/1 2013 Jul;40(7):579-80. doi: 10.1111/1346-8138.12156. Epub 2013 Apr 17.
48	Tomoyose T	第二内科	Real-time ultrasound-guided central venous catheterization reduces the need for prophylactic platelet transfusion in thrombocytopenic patients with hematological malignancy.	Transfusion and apheresis science 2013/1/1 2013;49:367-369
49	Oshiro Y	泌尿器科	A Japanese Multicenter Study of High-Dose Mizoribine Combined With Cyclosporine, Basiliximab, and Corticosteroid in Renal Transplantation (The Fourth Report).	Transplantation proceedings 2013/3/1 2013 May;45(4):1476-80
50	Kohshi K	高気圧治療部	Potential roles of hyperbaric oxygenation in the treatments of brain tumors.	Undersea & hyperbaric medicine 2013/7/1 2013 Jul-Aug;40(4):351-62.
51	Yamashiro S	第二外科	Root reconstruction with total replacement of ascending aorta using hypothermic circulatory arrest and selective cerebral perfusion for moderately dilated distal ascending aorta.	World Journal of Cardiovascular Surgery 2013 Vol.3 No.3, July 2013
52	Iraha A	光学医療診療部	Fucoidan enhances intestinal barrier function by upregulating the expression of claudin-1.	World journal of Gastroenterology 2013/9/1 2013 Sep 7;19(33):5500-7.
53	Tamaki K	第二内科	Two cases of fatal opportunistic infections occurred in ATL patients treated with mogamulizumab.	臨床血液 2013/9/1 54巻 9号 1312

小計 53件



54	Tomoyose T	第二内科	Possible higher frequency of anti-erythrocyte antibodies in adult patients with hemophilia.	臨床血液 2013/9/1 54巻 9号 1337
55	Shimoji H	第一外科	Induction chemotherapy or chemoradiotherapy followed by radical esophagectomy for T4 esophageal cancer: results of a prospective cohort study.	World journal of surgery 2013/9/1 2013 Sep;37(9):2180 -8.
56	Ling T	産婦人科	Clinical outcome of in vitro fertilization-embryo transfer in patients over 40 years from a single institution in Guangdong, China.	Ryukyu Medical Journal 2013/12/1 32巻 3-4号 79-88
57	Sasaki R	歯科口腔外科	Analysis of tongue movements during sucking by infants with cleft lip and palate using a diagnostic ultrasound device: Changes during the six months after birth	Journal of Oral and Maxillofacial Surgery, Medicine, and Pathology 2013/4/1 Available online 13 June 2013
58	Fukushima T	第二内科	Feasibility of cord blood transplantation in chemosensitive adult T-cell leukemia/lymphoma: a retrospective analysis of the Nagasaki Transplantation Network.	International journal of hematology 2013 Apr;97(4):485- 90
59	Hyakuna N	骨髄移植センター	Japanese Childhood Cancer and Leukemia Study Group (JCCLSG). Assessment of corticosteroid-induced osteonecrosis in children undergoing chemotherapy for acute lymphoblastic leukemia: a report from the Japanese Childhood Cancer and Leukemia Study Group.	Journal of pediatric hematology/onc ology 2014 Jan;36(1):22- 9.

合計 59件

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。

3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

- 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。
- 5 平成二十六年度中の業務報告において当該実績が七十件未満の場合には、平成二十六年度の改正前の基準による実績についても報告すること（別紙1参照）。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1				
2				
3				
4				
5				
～				

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
  - 3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第3)

【別紙1】

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類(日本語)

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

5 平成二十六年度中の業務報告において当該実績が七十件未満の場合には、平成二十六年度の改正前の基準による実績についても報告すること。

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	田中 照久	光学医療診療部	イベルメクチン連続投与により軽快した糞線虫過剰感染症候群の1例.	Clinical Parasitology
2	東新川実和	第一内科	膝液から活動性の糞線虫を認めた一例.	日本臨床寄生虫学会雑誌
3	真栄田 裕行	耳鼻咽喉・頭頸部外科	耳下腺腫瘍手術時における顔面神経の取り扱い	Facial Nerve Research Japan
4	宮里 実	泌尿器科	泌尿器科領域におけるヘルペスウイルス疾患の治療と今後の展望	FACIAL NERVE RESEARCH JAPAN
5	宮里 実	泌尿器科	特集2：連載“長期成績”－Ⅷ. 副腎摘除術 - Cushing・Subclinical Cushing 症候群に対する腹腔鏡下副腎摘除術野長期治療成績	Japanese Journal of Endourology
6	三好 晋爾	整形外科	ハローベストで治療した陳旧性環軸回旋位固定の3例(西日本脊椎研究会 特集号)	日本脊椎脊髄病学会
7	大城 義竹	整形外科	胸腰椎移行部後弯変形を伴った pseudoachondroplasiaの1手術例(西日本脊椎研究会 特集号)	日本脊椎脊髄病学会
8	崎間 洋邦	第三内科	[A case of transient ischemic attack of hemodynamic origin induced by postprandial hypotension].	臨床神経学

小計8件

9	原永 修作	第一内科	気管支内視鏡的嚢胞内ピッグテールカテーテル留置が保存的治療に有用であった巨大肺膿瘍症の1例.	日本気管支研究会雑誌
10	砂川 澄人	第二内科	脂質代謝異常症への多角的アプローチ 著明な高インスリン血症と異所性脂質蓄積を伴った肥満2型糖尿病の1例	The Lipid
11	戸板 孝文	放射線科	子宮頸癌の画像誘導小線源治療	映像情報medical
12	伊元 さやか	産婦人科	当院における外陰癌症例の検討	沖縄産科婦人科学会誌
13	下地 裕子	産婦人科	当科における進行卵巣癌IIIc・IV期に対する術前化学療法の後方視的検討	沖縄産科婦人科学会誌
14	金城 忠嗣	産婦人科	帝王切開の工夫：前置胎盤で術中超音をうい胎盤切開を避ける	沖縄産科婦人科学会誌
15	仲本 三鶴	産婦人科	当科の婦人科悪性腫瘍における肺塞栓症の後方視的検討	沖縄産科婦人科学会誌
16	平良 理恵	産婦人科	アロマターゼ阻害剤を併用して調節卵巣刺激を施行した乳癌の1症例	沖縄産科婦人科学会誌
17	仲栄真 盛保	第二外科	当院における下大静脈フィルター留置の治療成績	静脈学
18	瀧上竜也	集中治療部	HAMILTON-G5:Adaptive support ventilation(ASV)	人工呼吸

小計18件

19	小塚 智沙代	第二内科	玄米由来成分を活用した新規の糖尿病予防メカニズムの解明と臨床応用	糖尿病
20	中山 良朗	第二内科	腎性糖尿と異常インスリン症の合併が疑われた1例	糖尿病
21	内海 大介	皮膚科	右拇指にのみ皮膚病変が限局したHallopeau稽留性肢端皮膚炎の1例	日本皮膚科学会西部支部機関誌
22	仲村 郁心	皮膚科	ミクロネシア出身米軍兵に発症したLL型ハンセン病の1例	日本皮膚科学会西部支部機関誌
23	藤田 次郎	第一内科	肺炎と抗酸菌症の画像診断.	日本内科学会雑誌
24	山城 聡	第二外科	B型大動脈解離に対する治療戦略～手術症例を中心に～	日本血管外科学雑誌
25	田所 貴弘	集中治療部	左室補助人工心臓装着患者の急性呼吸不全に対し非侵襲的陽圧人工呼吸が著効した症例	日本集中治療医学会雑誌
26	久田友治	手術部	全国国立大学病院における手術部運営の効率化	日本手術医学会誌
27	屋宜千晶	周産母子センター	凍結融解胚移植の治療成績と妊娠転帰に関する検討.	日本受精着床学会雑誌
28	小塚 智沙代	第二内科	玄米成分γ-オリザノールによる新規の肥満症・糖尿病予防効果 視床下部小胞体ストレスの抑制を介した食行動の変容	日本内分泌学会雑誌

小計28件

29	仲村 英昭	第二内科	パラガングリオーマから神経芽腫へ診断を変更した成人の1例	日本内分泌学会雑誌
30	中山 良朗	第二内科	経過で下垂体卒中を起こしたマクroadenomaによるクッシング病の一例	日本内分泌学会雑誌
31	與那嶺 正人	第二内科	骨髄脂肪腫に合併した正常血圧の特発性アルドステロン症の一例	日本内分泌代謝学雑誌
32	垣花 学	麻酔科	オピオイドは虚血性脊髄障害を増悪させる	日本臨床麻酔学会誌
33	大城 匡勝	麻酔科	術中クライシスと外科的アプガースコア	麻酔
34	神里 興太	麻酔科	ガムエラスティックブジーと気管支ファイバーを利用して経蝶形骨手術後患者に対して経鼻挿管を行った1症例	麻酔
35	佐久川 陽子	麻酔科	挿管困難を認めたCoffin-Siris症候群患児に対しエアウェイスコープ小児用イントロロックが有用であった1症例	麻酔
36	砂川 澄人	第二内科	メタボリックストレスモデルにおけるキサランチンオキシダーゼ阻害薬の血管内皮機能改善効果について	メタボリックシンドローム
37	宮里 実	泌尿器科	結石が付着して抜去困難に陥ったDJカテーテルのトラブルシューティング	臨床泌尿器科
38	白瀬 春奈	皮膚科	アルコール依存症患者に生じたペラグラの1例	臨床皮膚科

小計38件

39	真玉橋 由衣子	麻酔科	術中体位変換を行う環軸椎亜脱臼を有する慢性関節リウマチ患者の全身麻酔経験	臨床麻酔
40	久田 友治	手術部	医療機器の故障	医療機器学
41	久田友治	手術部	全国国立大学病院手術部会議の調査に基づく無影灯の故障に関する検討	医療機器学
42	森近 一穂	第二内科	不明熱の原因精査に骨髄生検が有用であったホジキンリンパ腫の1例	沖縄医学会雑誌
43	藤田 次郎	第一内科	患者さんの人生を理解した肺結核の画像診断.	結核
44	原永 修作	第一内科	結核性胸膜炎治療中に胸膜結核腫と肺内病変を呈した1例.	結核
45	戸板 孝文	放射線科	子宮頸癌の放射線治療：放射線治療計画ガイドライン	産科と婦人科
46	戸板 孝文	放射線科	早期子宮頸癌に対する放射線治療の位置づけ：エビデンスを踏まえて	産婦人科の実際
47	島袋 全志	整形外科	脊髄癆によるCharcot spineに対して腰仙椎後方固定術を施行した1例.	整形外科と災害外科
48	山下 懐	耳鼻咽喉・頭頸部外科	下顎部に発生したデスマイド型乳幼児線維腫症の1例	頭頸部外科

計48件

49	戸板 孝文	放射線科	子宮頸癌 第51回日本癌治療学会学術集会 Educational Book；教育シンポジウム 化学放射線療法の過去・現在・未来	日本癌治療学会誌
50	喜友名 朝則	耳鼻咽喉・頭頸部 外科	当科における喉頭肉芽腫症例の検討	日本気管食道科学 会会報
51	辻野 佳世子	放射線科	診療 子宮頸癌腔内照射における患者満 足度アンケート調査報告	臨床放射線
52	戸板 孝文	放射線科	子宮頸癌（特集 コンツールリングを学ば う）	臨床放射線
53	平井 潤	第一内科	当院における気腫合併肺線維症症例の 胸部単純X線およびBMIの検討。	臨床放射線

合計53件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。
- 5 平成二十六年度中の業務報告において当該実績が七十件未満の場合には、平成二十六年度の改正前の基準による実績についても報告すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1				
2				
3				
4				
5				
～				

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。



(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 本学で行う臨床研究倫理審査委員会への申請手続き等に関すること。	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 6 回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。  
2 「③倫理審査委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと(その場合には、その旨を明らかとすること)。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 国立大学法人琉球大学利益相反マネジメントについての目的、定義、その他業務に関すること。	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 2 回

- (注) 「③利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと(その場合には、その旨を明らかとすること)。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 3 回
・ 研修の主な内容 第1回臨床研究教育レクチャー「臨床研究に先進医療制度を活用するために」 第2回臨床研究教育レクチャー「臨床試験におけるさまざまな落とし穴と方法論」 第3回臨床研究教育レクチャー「臨床試験概論：若手医師の萌芽的な研究から臨床開発まで」	

- (注) 「①臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において実施実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと(その場合には、その旨を明らかとすること)。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容 (別紙2参照)

【主な研修内容】	【研修受講者数】	【研修指導医数】
・心臓血管外科専門医研修	5人	5人
・呼吸器外科専門医研修	2人	1人
・外科専門医研修	4人	10人

2 研修の実績

研修医の人数	48人
--------	-----

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者 (別紙2参照)

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
島袋 盛洋	精神科	助教	16年	
岩淵 成志	第三内科	准教授	24年	
古波蔵 健太郎	第三内科	講師	21年	
井関 邦敏	第三内科	診療教授	40年	
渡嘉敷 崇	第三内科	助教	22年	
藤田 次郎	第一内科	教授	33年	
國吉 幸男	第二外科	教授	34年	
照屋 孝夫	第二外科	助教	21年	
永野 貴昭	第二外科	助教	20年	
外間 昭	光学医療診療部	准教授・部長	27年	
青木 陽一	産科婦人科	教授	30年	
正本 仁	産科婦人科	准教授	26年	
銘苺 桂子	産科婦人科	講師	15年	
新崎 章	歯科口腔外科	教授	30年	
鈴木 幹男	耳鼻咽喉科	教授	28年	
前原 博樹	整形外科	講師	17年	
普天間 朝上	整形外科	助教	26年	
新嘉喜 長	皮膚科	助教	10年	
山本 雄一	皮膚科	講師	19年	
上里 博	皮膚科	教授	36年	
村山 貞之	放射線科	教授	34年	
中村 清哉	麻酔科	講師	21年	
垣花 学	麻酔科	教授	23年	
淵上 竜也	麻酔科	講師	20年	
西 啓亨	麻酔科	助教	11年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

実施状況	(25年度実績) 54 件	研修受講者数合計 154.22 人						
主な研修内容	研修統括者氏名	役職	臨床経験年数(年)	研修受講者	根拠となる人数等	研修指導医数	所属部署	
精神保健指定医取得コース	島袋 盛洋	助教	16 年	4 人	実人数: 4 人 研修期間: 12 月	9 人	精神科	
日本精神神経学会精神科専門医取得コース	島袋 盛洋	助教	16 年	5 人	実人数: 5 人 研修期間: 12 月	8 人	精神科	
経胸壁心エコー・経食道心エコー	岩淵 成志	准教授	24 年	3 人	実人数: 3 人 研修期間: 12 月	4 人	第三内科	
重症心不全に対する集学的治療	岩淵 成志	准教授	24 年	3 人	実人数: 3 人 研修期間: 12 月	4 人	第三内科	
重症冠動脈疾患に対する集学的治療	岩淵 成志	准教授	24 年	3 人	実人数: 3 人 研修期間: 12 月	4 人	第三内科	
腎生検・腎病理	古波蔵 健太郎	講師	21 年	3 人	実人数: 3 人 研修期間: 12 月	4 人	第三内科	
慢性腎臓病に対する集学的治療	古波蔵 健太郎	講師	21 年	3 人	実人数: 3 人 研修期間: 12 月	4 人	第三内科	
腹膜透析導入・管理	井関 邦敏	診療教授	40 年	3 人	実人数: 3 人 研修期間: 12 月	4 人	第三内科	
血液透析導入・管理	井関 邦敏	診療教授	40 年	3 人	実人数: 3 人 研修期間: 12 月	4 人	第三内科	
筋電図・神経伝導速度検査	渡嘉敷 崇	助教	22 年	3 人	実人数: 3 人 研修期間: 12 月	3 人	第三内科	
筋生検	渡嘉敷 崇	助教	22 年	3 人	実人数: 3 人 研修期間: 12 月	3 人	第三内科	
重症肝疾患の管理(肝移植のコーディネートも含む)	藤田 次郎	教授	33 年	1 人	実人数: 3 人 研修期間: 4 月	2 人	第一内科	
炎症性腸疾患の診療、及び臨床研究	藤田 次郎	教授	33 年	1 人	実人数: 3 人 研修期間: 4 月	3 人	第一内科	
小腸内視鏡検査(カプセル内視鏡も含む) 手技の習得	藤田 次郎	教授	33 年	1 人	実人数: 3 人 研修期間: 4 月	3 人	第一内科	
HIV患者の診療及び臨床研究	藤田 次郎	教授	33 年	2 人	実人数: 2 人 研修期間: 12 月	3 人	第一内科	
感染症コンサルティングの実践	藤田 次郎	教授	33 年	3 人	実人数: 3 人 研修期間: 12 月	3 人	第一内科	
心臓血管外科専門医研修	國吉 幸男	教授	34 年	5 人	実人数: 5 人 研修期間: 12 月	5 人	第二外科	
呼吸器外科専門医研修	照屋 孝夫	助教	21 年	2 人	実人数: 2 人 研修期間: 12 月	1 人	第二外科	
外科専門医研修	國吉 幸男	教授	34 年	4 人	実人数: 4 人 研修期間: 12 月	10 人	第二外科	
ステントグラフト実施医・指導医研修	永野 貴昭	助教	20 年	1 人	実人数: 1 人 研修期間: 12 月	1 人	第二外科	
脈管専門医研修	國吉 幸男	教授	34 年	0 人	実人数: 0 人 研修期間: 12 月	3 人	第二外科	
炎症性腸疾患の診療と臨床研究	外間 昭	准教授・部長	27 年	1 人	実人数: 3 人 研修期間: 4 月	3 人	光学医療診療部	
小腸内視鏡検査手技の習得	外間 昭	准教授・部長	27 年	1 人	実人数: 3 人 研修期間: 4 月	3 人	光学医療診療部	
早期胃癌及び食道癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術の習得	外間 昭	准教授・部長	27 年	1 人	実人数: 1 人 研修期間: 12 月	1 人	光学医療診療部	
食道・胃・大腸における狭域光拉大内視鏡による悪性腫瘍の深達度診断	外間 昭	准教授・部長	27 年	12 人	実人数: 12 人 研修期間: 12 月	6 人	光学医療診療部	
産科婦人科専門医研修コース	青木 陽一	教授	30 年	11 人	実人数: 11 人 研修期間: 12 月	11 人	産科婦人科	
婦人科腫瘍専門医研修コース	青木 陽一	教授	30 年	4 人	実人数: 4 人 研修期間: 12 月	2 人	産科婦人科	
母体・胎児専門医研修コース	正本 仁	准教授	26 年	2 人	実人数: 2 人 研修期間: 12 月	1 人	産科婦人科	
生殖医療専門医研修コース	銘苅 桂子	講師	15 年	3 人	実人数: 3 人 研修期間: 12 月	1 人	産科婦人科	
産婦人科内視鏡下手術専門医研修コース	銘苅 桂子	講師	15 年	4 人	実人数: 4 人 研修期間: 12 月	1 人	産科婦人科	
口唇口蓋裂一貫治療の現況	新崎 章	教授	30 年	3.25 人	実人数: 13 人 研修期間: 3 月	1 人	歯科口腔外科	
口唇口蓋裂の治療の現状と展望	新崎 章	教授	30 年	1 人	実人数: 12 人 研修期間: 1 月	1 人	歯科口腔外科	
内視鏡下鼻科手術トレーニングコース	鈴木 幹男	教授	28 年	0.41 人	実人数: 3 人 研修期間: 50 日	3 人	耳鼻咽喉科	
悪性骨軟部腫瘍に対する液体窒素処理自家骨移植を用いた再建	前原 博樹	講師	17 年	0.25 人	実人数: 1 人 研修期間: 3 月	2 人	整形外科	
血管柄付組織移植を用いた再建	普天間 朝上	助教	26 年	0.25 人	実人数: 1 人 研修期間: 3 月	4 人	整形外科	
四肢先天異常の診断と治療	普天間 朝上	助教	26 年	0.25 人	実人数: 1 人 研修期間: 3 月	4 人	整形外科	
皮膚アレルギー検査(パッチテスト、内服テスト、運動負荷テスト)の実践	新嘉喜長	助教	10 年	6 人	実人数: 6 人 研修期間: 12 月	2 人	皮膚科	
ナローバンド(UVB)治療の実際の手技	新嘉喜長	助教	10 年	6 人	実人数: 6 人 研修期間: 12 月	2 人	皮膚科	
膠原病患者(SLE,皮膚筋炎)の診断と治療	山本 雄一	講師	19 年	6 人	実人数: 6 人 研修期間: 12 月	1 人	皮膚科	
自己免疫性水疱症(天疱瘡と類天疱瘡)の診断と治療	新嘉喜長	助教	10 年	6 人	実人数: 6 人 研修期間: 12 月	1 人	皮膚科	
真菌症の検査・診断の実際	上里 博	教授	36 年	6 人	実人数: 6 人 研修期間: 12 月	2 人	皮膚科	
ハンセン病の診断・検査・治療の実際	上里 博	教授	36 年	6 人	実人数: 6 人 研修期間: 12 月	2 人	皮膚科	

主 な 研 修 内 容	研修統括者氏名	役職	臨床経験 年数(年)	研修受講者	根拠となる人数等	研修指導医数	所属部署
放射線科診断学専門研修Aコース	村山 貞之	教授	34 年	3 人	実人数: 3 人 研修期間: 12 月	6 人	放射線科
放射線科診断学専門研修Bコース	村山 貞之	教授	34 年	2 人	実人数: 2 人 研修期間: 12 月	6 人	放射線科
放射線科治療学専門研修コース	村山 貞之	教授	34 年	4 人	実人数: 4 人 研修期間: 12 月	4 人	放射線科
放射線科核医学専門研修コース	村山 貞之	教授	34 年	1 人	実人数: 1 人 研修期間: 12 月	2 人	放射線科
臨床研究者育成コース	村山 貞之	教授	34 年	1 人	実人数: 1 人 研修期間: 12 月	2 人	放射線科
ペインクリニック専門医取得コース	中村 清哉	講師	21 年	2 人	実人数: 2 人 研修期間: 12 月	2 人	麻酔科
ペインクリニック専門医取得コース	中村 清哉	講師	21 年	0.66 人	実人数: 4 人 研修期間: 2 月	2 人	麻酔科
心臓血管麻酔専門医取得コース	垣花 学	教授	23 年	0.83 人	実人数: 5 人 研修期間: 2 月	4 人	麻酔科
心臓血管麻酔専門医取得コース	垣花 学	教授	23 年	0.66 人	実人数: 4 人 研修期間: 2 月	4 人	麻酔科
集中治療医専門医取得コース	洲上竜也	講師	20 年	1 人	実人数: 1 人 研修期間: 12 月	2 人	麻酔科
集中治療医専門医取得コース	洲上竜也	講師	20 年	0.83 人	実人数: 5 人 研修期間: 2 月	2 人	麻酔科
周術期超音波専門医取得コース	西 啓亨	助教	11 年	0.83 人	実人数: 5 人 研修期間: 2 月	4 人	麻酔科
			年	人	実人数: 人 研修期間: 月	人	
			年	人	実人数: 人 研修期間: 月	人	

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容：

・研修の期間・実施回数：

・研修の参加人数：

(1) 移植症例について，対象疾患，移植の適応，移植実施計画，無菌管理，使用薬剤の副作用，GVHDの理解，心理的ケア等/平成25年4月～平成26年3月（毎週開催：50回）/  
看護師10名，薬剤師1名，保育士1名，心理士1名

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容

・研修の期間・実施回数

・研修の参加人数

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

・研修の主な内容

・研修の期間・実施回数

・研修の参加人数（院外）

(1) 第54回神奈川胎児エコー研究会／平成25年6月23日／2人（臨床検査技師）

(2) 第55回神奈川胎児エコー研究会／平成25年9月15日，16日／5人（検査技師）

(3) 第21回胎児診断症例報告会／平成25年11月24日／2人（臨床検査技師）

(4) 第5回医学物理学セミナー『IMRTの高精度性の確保：臨床からQA/QCまで』

『IGRTの概論～呼吸同期（RTRT）』／

平成25年6月29日／10人（放射線技師，医学物理士）

(5) 第6回医学物理学セミナー『治療用線量の標準とその供給体制について』

平成25年11月2日／9人（放射線技師，医学物理士）

(6) 第7回医学物理学セミナー『放射線治療の照射線量計算について』

『MRIの基礎知識～見ておきたいこと，知っておきたいこと』／

平成25年11月30日／11人（放射線技師，医学物理士）

(7) がん看護セミナー特別講義「がん患者・家族の意思決定支援～事例を通して～」／

平成25年5月18日／9名（看護師）

(8) 第1回がん看護プロフェッショナル教育セミナー『痛みのマネジメント』／

平成25年12月19日／7名（看護師）

(9) がん看護プロフェッショナル教育セミナー特別講演『研究成果を臨床で活かそう！～臨床における研究的視点を高めるためには～』／平成25年12月14日／9名（看護師）

(10) 第2回がん看護プロフェッショナル教育セミナー『症状マネジメント』／

平成26年1月9日／7名（看護師）

(11) 第2回沖縄県がん相談支援員実務者研修会「がん化学治療と患者支援」／

平成25年10月25日／11名（看護師，医療ソーシャルワーカー）

(12) 第4回沖縄県がん相談支援員実務者研修会「小児がんと患者支援」／

平成26年3月14日／13名（看護師，医療ソーシャルワーカー）

(13) 第1回院内がん登録研修会「肝がん概論，肝がん病期分類の講義，演習問題」／

平成25年6月29日／73名（がん登録実務者）

(14) 耳鼻咽喉科に関する検査（純音聴力検査，語音聴力検査，ティンパノメトリー，音響性耳小骨筋反射検査）小児難聴に対する検査方法など

平成25年9月9日～13日，平成25年9月17日～20日，平成26年3月17日～20日／

3名（看護師，言語聴覚士）

(15) 沖縄液状化検体細胞診（LBC）研究会/平成26年3月29日/12名（細胞検査士）

(16) 感染管理認定看護師取得講座/平成25年9月14～16日，18日/29名（看護師）

(17)米国外科学会認定 Disaster Management Emergency Preparedness(DMEP)コース/

平成25年10月26日/7名, 平成25年10月28日/16名(救急救命士, 臨床工学技士, 看護師等)

(注) 1 高度の医療に関する研修について記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。なお、平成二十六年度中の業務報告においては、平成二十六年四月以降の実績(計画)を報告しても差し支えないこと(その場合には、その旨を明らかにすること)。

## (様式第5)

## 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 ②. 現状
管理責任者氏名	國吉 幸男
管理担当者氏名	総務課長 渡名喜一夫, 医療支援課長 上原葉子, 放射線部長 村山貞之, 薬剤部長 國吉幸, 看護部長 下地孝子

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌, 各科診療日誌, 処方せん, 手術記録, 看護記録, 検査所見記録, エックス線写真, 紹介状, 退院した患者 に係る入院期間中の診療経過の要約 及び入院診療計画書		総務課 看護部 薬剤部 手術部 医療支援課 放射線部	各診療日誌、看護記録は院内情報システム上で共有し、一定期間ずつプリントアウトしてファイリングしている。 診療録は入院、外来別に1患者1ファイル方式で中央管理している。 X線写真はデジタル化後、放射線部サーバーで保管管理し、出力画像は各診療科保存としている。 処方箋は、外来は1週間単位、入院は病棟単位で綴り、薬剤部で保管。 診療録を病院外に持ち出しすることは、『琉球大学医学部附属病院中央病歴室管理運営要項』で禁止されている。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	総務課	各課・診療科・関連部署で適切に管理している。
	高度の医療の提供の実績	医療支援課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	医学部事務部 各診療科	
	高度の医療の研修の実績	総務課	
	閲覧実績	総務課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	医療支援課	
入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医療支援課 薬剤部		
第規一則号第一に掲げる十の十一の第一項の各号及び第九	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	安全管理対策室	各関連部署で適切に管理している。
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	安全管理対策室	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	安全管理対策室	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	安全管理対策室	
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	安全管理対策室	



条 の 二 十 第 一 項	専任の院内感染対策 を行う者の配置状況	感染対策室	
	医療に係る安全管理を 行う部門の設置状況	安全管理対策 室	
	当該病院内に患者か らの安全管理に係る相 談に適切に応じる体制 の確保状況	安全管理対策 室	

		保管場所	管理方法
病院の管理 及び運営に 関する諸記 録	規則 第 一 条 の 十 一 第 一 項 各 号 及 び 第 九 条 の 二 十 三 第 一 項 第 一 号 に 掲 げ る 体 制 の 確 保 の 状 況	院内感染のための指 針の策定状況	各関連部署で適切に管理している。
	院内感染対策のため の委員会の開催状況	感染対策室	
	従業者に対する院内 感染対策のための研修 の実施状況	感染対策室	
	感染症の発生状況の 報告その他の院内感染 対策の推進を目的とし た改善のための方策の 実施状況	感染対策室	
	医薬品の使用に係る 安全な管理のための責 任者の配置状況	薬剤部	
	従業者に対する医薬 品の安全使用のための 研修の実施状況	薬剤部	
	医薬品の安全使用の ための業務に関する手 順書の作成及び当該手 順書に基づく業務の実 施状況	薬剤部	
	医薬品の安全使用の ために必要となる情報 の収集その他の医薬品 の安全使用を目的とし た改善のための方策の 実施状況	薬剤部	
	医療機器の安全使用 のための責任者の配置 状況	M E 機器セン ター	
	従業者に対する医療 機器の安全使用のため の研修の実施状況	M E 機器セン ター	
医療機器の保守点検 に関する計画の策定及 び保守点検の実施状況	M E 機器セン ター		
医療機器の安全使用	M E 機器セン		

	況 のために必要となる情報 の収集その他の医療機器の 安全使用を目的とした改善の ための方策の実施状況	ター	
--	---	----	--

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	②. 現状
閲覧責任者氏名	附属病院長 國吉 幸男	
閲覧担当者氏名	総務課長 渡名喜 一夫	
閲覧の求めに応じる場所	管理棟2階 小会議室	
閲覧の手続の概要 閲覧の求めがあった場合、閲覧担当者が個別に対応する。		

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0 件
閲覧者別	医 師	延 0 件
	歯 科 医 師	延 0 件
	国	延 0 件
	地方公共団体	延 0 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第6)

規則第1条の11第1項各号及び第9条の23第1項第1号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"><li>① 医療機関における安全管理に関する基本的な考え方</li><li>② 医療にかかる安全管理のための委員会その他医療機関内の組織に関する基本的事項</li><li>③ 医療にかかる安全管理のための従業者に対する研修に関する基本方針</li><li>④ 医療機関内における医療事故報告等の医療にかかる安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針</li><li>⑤ 医療事故発生時の対応に関する基本方針</li><li>⑥ 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針</li><li>⑦ 患者からの相談への対応に関する基本方針</li><li>⑧ その他医療安全の推進のために必要な基本方針</li></ul>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 12 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"><li>① 安全管理の対策及び教育に関すること</li><li>② 医療事故の判定に関すること</li><li>③ リスクマネジメント・マニュアルに関すること</li><li>④ 医療事故が発生したときにおける事実確認・措置及び対策に関すること</li><li>⑤ 医療紛争が生じたときの拡大防止に関すること</li><li>⑥ 訴訟が提起されたときの対策に関すること</li><li>⑦ その他安全管理、医療事故、医事紛争及び訴訟に関する重要事項</li></ul>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 3 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"><li>① 第1回 医療機器・医薬品・医療安全職員研修会（3部署合同） 日時：平成25年6月18日（火） 内容：当院の医療安全の基本<ul style="list-style-type: none"><li>①医療安全とヒューマンファクターズ</li><li>②植込み型デバイス（ペースメーカー、ICD）に対する電磁波の影響</li><li>③医薬品適正使用のためのTDM</li></ul>講師：①安全管理対策室 長濱 一史 ②ME機器センター 小田 正美 ③薬剤部 潮平 英郎</li><li>② 第2回 医療安全職員研修会 日時：平成25年9月19日（木） 内容：全職員で取り組む医療安全 ～高いリスクと、信頼の中で～ 講師：名古屋大学医学部附属病院 医療の質・管理部 教授 兼 副病院長 長尾 能雅</li><li>③ 第3回 医療安全職員研修会 日時：平成25年10月24日（木） 内容：クリニカル講演会 講師：ニチイ学館事業部開発部長 石川 充</li></ul>	

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機関内における事故報告等の整備 ( <input checked="" type="radio"/> ・ 無 )</li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>① インシデントに関する対策事項の提出</li> <li>② 分析担当者による安全確認を月1回訪問確認。</li> <li>③ 病院管理者による院内巡視を行い、直接的に指導・確認。</li> <li>④ リスクマネジャー連絡会議・安全ニュース等で情報の共有を図る。</li> <li>⑤ 研修会の実施、少人数でのシミュレーション研修の実施。</li> </ul> </li> </ul>
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	<input checked="" type="radio"/> ( 1 名 ) ・ 無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	<input checked="" type="radio"/> ( 3 名 ) ・ 無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	<input checked="" type="radio"/> ・ 無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 所属職員： 専任 ( 3 ) 名 ( GRM : 1 名 ( 看護師 ) 事務担当 : 2 名 ) 兼任 ( 15 ) 名 ( 室長 1 名 ) ( 医師 : 6 名 , 看護師 : 3 名 , 薬剤師 : 1 名 , 臨床工学技士 : 1 名 , 事務職 : 4 名 )</li> <li>・ 活動の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>① 安全管理対策に係る実施状況調査に関する事。</li> <li>② 安全管理対策に係る職員の教育研修及び具体的な指導方法に関する事。</li> <li>③ リスクマネジメント・マニュアルの改正に関する事。</li> <li>④ 医療事故及びインシデントに係る発生原因の調査・分析並びに関係部署に対する指導・助言に関する事。</li> <li>⑤ 医療事故などに係る診療録・看護記録等への記載が正確かつ十分になされているかの確認及び必要な指導に関する事。</li> <li>⑥ 医療事故発生時における患者及び家族に対する説明等の対応状況の確認及び指導に関する事。</li> <li>⑦ 医療紛争の原因の調査及び分析に関する事。</li> <li>⑧ 医療安全管理委員会の資料及び議事録の作成及び保管、その他委員会の庶務に関する事。</li> <li>⑨ 患者相談窓口に関する事。</li> <li>⑩ その他、医療安全対策の推進及び連絡調整に関する事。</li> </ul> </li> </ul>	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	<input checked="" type="radio"/> ・ 無

(様式第 6)

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 院内感染対策に関する基本的な考え方</li><li>2. 感染対策委員会の設置</li><li>3. 感染対策室及び感染対策実務者会議の設置</li><li>4. 職員研修について</li><li>5. 院内感染発生状況の把握と報告</li><li>6. 院内感染発生時の対応</li><li>7. 院内感染対策指針の閲覧に関する対応</li></ol>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 11 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 院内決定事項について：マニュアル改定，ディスポ化，アウトブレイク，その他</li><li>2. 報告事項：耐性菌検出状況，抗菌薬届出状況，血液培養陽性状況</li></ol>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 4 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>【第1回】 開催日：平成25年6月26日 内容：「感染対策マニュアルの見方と消毒薬使用期限マニュアルについて」 「TDMと解析について」 「抗菌薬適正使用について」 「検体の保管方法について」 「感染対策指針」 参加人数：1221人</p> <p>【第2回】 開催日：平成25年9月10日 内容：「血液培養検査で知ってもらいたいこと」 「当院における血液培養検査の状況」 「血液培養採取方法」 参加人数：837人</p> <p>【第3回】 開催日：平成25年12月12日 内容：「インフルエンザについて」 「ノロ対策について」 参加人数：708人</p> <p>【第4回】 開催日：平成26年3月25日 内容：「MRSA侮ることなかれ」 —MRSA対策は院内感染対策の基本— 講師：名古屋大学 八木哲也教授 参加人数：386人</p>	

④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 病院における発生状況の報告等の整備 (  ・ 無 )
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：

1. 報告

- 1) 感染対策室専従看護師が、日々耐性菌分離状況の確認を行い病棟へ報告する。
- 2) 細菌検査技師が、週1回のICTミーティングで耐性菌分離状況を報告し、ICTメンバーで情報共有をする。
- 3) ICTメンバーは、アウトブレイク情報などを感染対策委員会、感染対策実務者で報告する。

2. 感染対策の推進のための方策

- 1) 感染対策リンクナース委員会で手指衛生実施状況、SSI、BSIサーベイランスを実施する。
- 2) ICD, 薬剤師による抗菌薬ラウンドを行い適正な抗菌薬使用を推進する。
- 3) ICTメンバーは、感染対策上の問題が発生した場合には、感染対策委員会や実務者委員会、リンクナース委員会、また院内メールを活用し職員へ情報を提供している。
- 4) 耐性菌分離状況の週報を用いて、週1回ICTメンバーでラウンドを実施している。

(様式第 6)

### 医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	☑・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 1 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>第1回 医薬品安全職員研修会（3部署合同）：平成25年6月18日（火）17：30～18：30 内容：「医療安全の基本」 医薬品適正使用のためのTDM 薬剤部 潮平英郎 他，ノンテクニカルスキル/安全管理対策室 埋め込みデバイスに対する電磁波の影響 ME機器センター *ビデオによる追加研修会：H25年6月20日15：30～，17：30～2回開催 延参加数：1382名</p>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成 (☑・無)</p> <p>・ 業務の主な内容：</p> <p>手順書を作成し院内各部署に配置，また必要があれば改定し改定箇所を差し替えている。実施状況は各部署責任者が手順書に基づいて業務が行われているかをチェックし，また病棟担当薬剤師が定期的に巡回，さらに年2回程度は手順書に基づく業務が実施されているかを，チェックリストを用いて確認・記録している。</p>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (☑・無)</p> <p>薬品情報担当薬剤師が，PMDA医薬品医療機器情報ホームページ，電子カルテ上のJUS-DI，製薬会社MRより入手し，評価・周知している。</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1) 経管チューブでの薬剤詰まりのインシデント 昨年発生したインシデント（クラビット細粒を溶解し栄養チューブから投与，詰まらせた）対策として，薬剤部において「経管で詰まりやすい薬剤BEST 6」を作成し病棟薬剤師をとおして配布，さらにDIニュースにも掲載した。</li><li>2) アレビアチンによる血管外漏出のインシデント NICUにおいてアレビアチンによる血管外漏出のインシデントが発生し，これに対して，抗がん剤以外の漏出に注意する薬剤一覧を作成しDIニュースとして配布した。</li><li>3) モビプレップ配合内用剤に関するインシデント 経口腸管洗浄剤モビプレップで脱水2事例の報告があった。本剤の添付の説明書が分りにくい ため，薬剤部で追加の説明書を作成して全製品に添付し交付，またDIニュースとして配布した。</li><li>4) アレルギー患者へのバンコマイシン投与のインシデント 今年3月に病棟において，バンコマイシン（VCM）にアレルギーがある患者に対しVCMが投与されかけたインシデントが発生した。そこで薬剤部で「禁忌薬剤の登録方法」を作成し，院内会議での周知，各病棟への文書配布，電子カルテでのお知らせ等の対策を実行した。</li></ol>	



(様式第 6)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	☑・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 59 回
<ul style="list-style-type: none"><li>研修の主な内容： 人工呼吸器，除細動器，血液浄化装置，保育器，人工心肺関連の取扱，安全新規導入機器における取扱説明会。 医療機器の安全における必要性。</li></ul>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>計画の策定 ( ☑・無 )</li><li>保守点検の主な内容： 生命維持装置に関連する医療機器や院内使用頻度が高い医療機器，メンテナンスが必要と考えられる医療機器38品目855台を院内の医療機器安全専門委員会で決定し，日常点検，使用中点検，定期点検を決定し実施している。</li></ul>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>医療機器に係る情報の収集の整備 ( ☑・無 )</li><li>その他の改善のための方策の主な内容： PMDA，各種学会からの報告，業者からの不具合情報等をME機器センターで収集し，院内採用機器であるかの判別後，各部署に周知徹底を行っている。また，重要事項においては，直接病院長報告を行うと同時に，各部署への再教育，点検内容の見直しを行い，院内回覧においてすべての職員に周知している。</li></ul>	

(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	有・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 病院機能評価 平成22年5月30日 認定第JC509-2号 一般病院	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
・情報発信の方法、内容等の概要 【広報手段】 ・病院ホームページ，病院情報誌ホットライン，医学部附属病院概要などで広報活動を行っている。 【広報内容】 ・診療科部等の紹介 ・職員，専門医，認定医等の紹介 ・特集記事 (インフルエンザ・不眠症・鬱病などの病気に関することや，新規導入機器・施設等の紹介) ・イベント案内 など	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 連携体制の概要（参考例） ・周術期の患者に対し，歯科口腔外科と手術を実施する診療科が連携して外科手術後の合併症予防のための口腔機能管理を行っている。 ・複数診療科にまたがる手術を要される患者に対し，手術実施診療科だけでなく病理医も含め合同でカンファレンスを行うなど，連携して対応にあたっている。 ・精神科入院患者で，身体疾患を併せ持つ患者に対して，精神科と精神科以外の診療科が連携し，必要に応じて精神科以外の診療科への入院受け入れが可能な体制となっている。	

(様式第 8)

琉大医総第273号  
平成 26年10月 1日

九州厚生局長 殿

琉球大学医学部附属病院長  
國吉 幸男 (印)

琉球大学医学部附属病院の標榜する診療科の整備に関する計画について

標記について、次のとおり提出します。

記

1 診療科名

1-1 標榜する診療科の区分

- 1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科すべてを標榜  
② 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○を付けること。

1-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科		①		無		
内科と組み合わせた診療科名等						
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
診療実績						

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科		①		無		
外科と組み合わせた診療科名						
1 心臓血管外科	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
診療実績						

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名につ

いて記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科	②小児科	③整形外科	④脳神経外科	⑤皮膚科	⑥泌尿器科	7産婦人科
⑧産科	⑨婦人科	⑩眼科	⑪耳鼻咽喉科	⑫放射線科	13放射線診断科	
14放射線治療科	⑬麻酔科	16救急科				

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科							○	・	無
歯科と組み合わせた診療科名									
1 歯科口腔外科	2	3	4	5	6	7			
歯科の診療体制									

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外で標榜している診療科名

1 呼吸器科	2 消化器科	3 循環器科	4 神経科	5 病理診断科	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

### 3 不足している診療科の整備のための予定措置

平成26年12月1日に救急科を開設予定。

(様式第 8)

琉大医総第 273号  
平成 26年 10月 1日

九州厚生局長 殿

琉球大学医学部附属病院長  
國吉 幸男 (印)

琉球大学医学部附属病院の論文発表等の向上に関する計画について

標記について、次のとおり提出します。

記

1 論文発表等の実績

英語による発表論文数	59 件
------------	------

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資すると判断されるものの数を記入すること。

(注) 2 対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること（筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る）。

2 論文発表等を向上するための具体的な予定措置

- ・英文論文作成のためのワーキンググループを立ち上げ、すでに第 1 回目の会合（平成 26 年 9 月 18 日）を開催した。
- ・教授会で、附属病院における論文数の増加が必要であるという認識を確認する必要がある。臨床教授会を活用し、ワーキンググループから定期的に論文数の現状を報告する。
- ・比較的、短期間に完成する症例報告を意識して執筆することを推奨する。
- ・教授、および准教授の英文総説（ただし査読のある雑誌）を増やす。
- ・医局の主体性に任せるが、同門会賞などで論文を多く執筆した医局員を表彰する。
- ・医局員、および研修医の国内学会での発表を奨励し、その後の英文論文化に努める。また研修医 2 年目の先生方の国際学会での発表を指導する。指導医の訓練になるとともに、研修医の motivation 向上につながり、さらに英文論文に直結する。もちろん研修期間を確保することが前提となるものの、内科から試行的に開始する。
- ・複数診療科の興味深い症例について、率先して症例報告論文の作成を促す。たとえば、画像所見が興味深く、かつ診療科が論文にしていないものに関しては、放射線科と診療科との相談・合意の上、論文化を推奨する。
- ・Ryukyu Medical Journal を活用する。
  - ・埋もれた英文論文を積極的に投稿
  - ・Ryukyu Medical Journal に症例特集号を企画
  - ・Ryukyu Medical Journal に掲載された研修医の英文症例報告を表彰する。
- ・臨床薬理学講座の論文をどのように扱うか、は今後の課題とする。また論文数を正確に把握する。